

福島第一原子力発電所 土壤中のPu分析結果

1. 測定結果

(単位: Bq/kg・乾土)

| 採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離 | 採取日 分析機関 | Pu-238 | Pu-239, Pu-240 |
|----------------------------|-------------|---------------------------------|---------------------------------|
| グラウンド(西北西約500m) | 9月5日 | $(1.1 \pm 0.11) \times 10^{-1}$ | $(3.8 \pm 0.65) \times 10^{-2}$ |
| 野鳥の森(西約500m) | 日本分析 | N.D. [$<1.2 \times 10^{-2}$] | $(1.6 \pm 0.44) \times 10^{-2}$ |
| 産廃処分場近傍(南南西約500m) | センター | $(4.4 \pm 0.75) \times 10^{-2}$ | $(3.6 \pm 0.67) \times 10^{-2}$ |
| グラウンド(西北西約500m) | 9月12日 | $(1.2 \pm 0.12) \times 10^{-1}$ | $(4.9 \pm 0.70) \times 10^{-2}$ |
| 野鳥の森(西約500m) | 日本分析 | N.D. [$<1.2 \times 10^{-2}$] | $(1.6 \pm 0.43) \times 10^{-2}$ |
| 産廃処分場近傍(南南西約500m) | センター | $(7.0 \pm 0.95) \times 10^{-2}$ | $(5.6 \pm 0.83) \times 10^{-2}$ |
| 国内の土壌 | | N.D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$ | N.D. ~ 4.5 |

[]内は検出限界値を示す

: 文部科学省「環境放射線データベース」昭和53年～平成20年

: 「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

2. 評価

9月5日ならびに9月12日に検出されたPu-238とPu-239, 240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

なお、3月21日以降にサンプリングした試料からPu-238およびPu-239, Pu-240が検出されている箇所があるが、値に大きな変化は見られていない。

以上